

○矢野營太廠長 新任營林
新任石井米大使は四月一日西伯
利亞號にて退任すべし(東京電報)
○我が帝國にして、世界の現
に對し、聯合國の一員として
逸の東亞政策を未だに方ぎ

也。加ふるに、我は、世界大風の
除波を受け、經濟上極めて、有利の
土地を占め、其主として、十億大
豆を運手其の數を類し、米

● 京城米穀検査

京城より内地に移出する米穀及

市街地稅告別

田中氏歡迎會

八月午こ 皇帝に問はれ、唯赤心
目下入こ 答へたる安藤山の、叛

本書は官廳産業其の他

執務上を衣め
句も朝鮮に關係
央も缺くへか

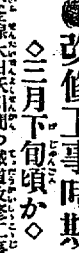
有し朝鮮に精

なり

[illegible]

四三二一歩
節節節節節
千十十十十
開開開開開
九八八八八
生九十四四
節節節節節
同同同同同
同同同同同
同同同同同

阿比留山、高橋今宿公、岡村久野郎左衛門、
國三正治、今井升丸、八幡郡長
谷部勘米、渡津代藏、木越紹治、川手今
四つ井、朝永、林原孝、備來仕、川邊一
同とし子小枝茂、岡五雄、松島信吉、柏崎

[illegible]

下らず該縣盤開、菜の曉は靈若、
興、寶城、鳥城院、明天、陳水、河
等豫定、總各地の農海產物は何れ
柴山浦に集中すべく從つて水運
便の一層煩索となるに即へて總
亦此餘惠を受くる事大なるべし

て橋本商店に送附せられたるブル百箇入一箱は兼二流瀬にて洗滌の結果三十五餘箇取せられ其餘以前三月十一日頃同店に入荷の果三箱の内一箱は九十箇入りの二十六箇を惣取せられ又兼二流二十六箇商店に去る十三日頃入荷品

は廿日朝後に晴間露着のまゝと
だらう△△大ものごじつ獨探
いふ問題になつたやうである
かし本當に仕舞する奴はいつ
華車位ぬにふんぞり反つて大
ふつて返つてゐるか居ないか
たもんぢやあない(衆笑)

[illegible][illegible]

道は、手前のかたへ、
遠くへ、味方へ、

わにも事の子まはり十時和子金のと隣く希
人代しと裡けい、他年満りの國事斯る難

製 創 所 驗 試 究 研 谷 桃

粉 白 顔 美

新化粧品創製の御内意を拜して

再びマリ嬢を迎へ

各宮家御用美容術大家

マリ・ルウヰズ嬢は

總ての白粉の中で、品質第一位の優秀なる白粉として、學者の創製したる美顔白粉を撰定し、尊貴の御料に推奨せられました事は、皆様御承知の通りであります。本舖は今回復た又、光榮ある御内意を拜しましたので、同嬢を研究試験所に迎へ、新しい化粧品の創製に就て、誠に好い参考となるべきお話を伺ふ事が出来ました。

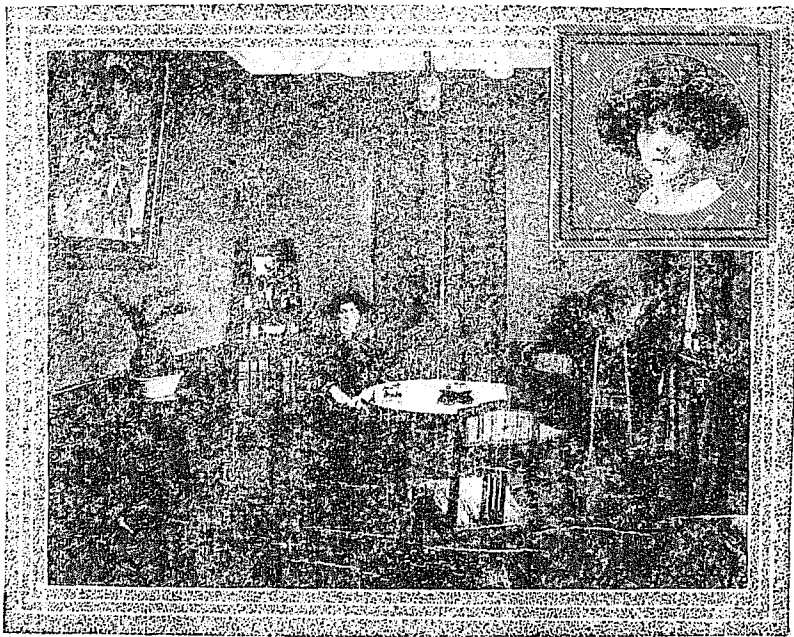
《料粧化顔美》
元 賣 發



桃 谷 順 天 館

東京市日本橋區本町四丁目電話本局三〇二六・三〇二七
東京市日本橋區本町二丁目電話本局二六三九
大阪市西區南船場二丁目電話土佐局六四七・六四八

桃谷研究試験所附上應接室における
マリ・ルウヰズ嬢



大阪讀の家主人

A black and white portrait of a man in profile, facing left. He has dark hair and is wearing a light-colored, draped garment. The background is dark and textured.

に云つた
「何處の御仁かは知らねば、折角
お越しなされたのぢや、金御でも
云うて進じ召され、一粒の飯も遣
はされねば、二十日の命もござる
まはせ」
「何うもつても御免の御沙汰は
ござられてござりませうな」
「勿論の儀、日頃御最良の大願も
申し御立腹と申すを聞いた、お奥
は申すまでもない、お表にても武
士道にあつたまじき仕方、終るに
盡心の所爲であらうと云うて、誰
一人人情を許す者ござり申され」
「さほど不思議でもござるまい
を、さてく不便さうな體でござ
る」
利右衛門はげんなりと云つた、
二人の壯士は氣の毒さうに立ち
去る
これで消之丞に逢ふ時がない
に免じて、初瀬の首を見るこ
は置まい、折柄これへ來合せ
斯した機に出會ふのも宿世不思
の因縁と云ふのであらう、被門
のかに堅くても、兩權の番人
かに厭さるゝ、助け出す餘が無
はあるまい、何事も初瀬の爲め
初瀬の命を助けるは娘の命を助
るも同様ぢや、頭をを逃げるま
逗留して、この被門へ道を付け
り出る
利右衛門は斯う覺悟して、情
さ大手門を去つた、日は名残無
暮れて、大月盆の如く東の山を
り出る
この月を消之丞は御機嫌な怒か
見た、風は死して夕暮れの淋し
が終つたと覺つて来る
「平寂したにされるのぢや、解免
（落したのぢや、お家の危急を）
本から救はうとして、却て深い

聖王御入ル
 矢神が御存じになつて居る、
 も来い、死の手も来い、そんな

司、天神が御存じになつて居るのも來い、死の手も來ない」で、手前の斯うは碎かれない」薄之丞は斯うした決心でじつと間に坐つて居た。番卒は突る友人の出口を守る、その金棒の響きが、一日經ち、二日經ち、三日五日

する事に確定した種々變化仲々面白い料理博士 ▲三月十六日朝刊讀者の個分にあつた困つた人と感で、す全く京都府廳から税金調べに來る人は隨分慷慨な實業を便へ人です、すれ全部彼の人を廻して居るよう云ふ降でもありませんが、私等は後の様な言葉を使はれると

圖春の雨 村泉己之介

の別な女とも、健やかに逢ひけるかも知れぬ。然るに、
此の如く、限りなく續く春の姿を眺めておれば、
白雲さながら、
舟中に充てば、寒波しに暮らぬち明くる日も
あらず。ひびきまよりにける秋風、ふべはろも山
々に一人寝れば、清しく流れ流れる。

夫れが、
失戀の悲境を成せすに居られず、
然し初めから境遇の違ふ女に戀したのが誤りなので自分はこの何よりの契機をとして奮起し、今一に成功せずには置くものか。心に叫んだ「貴人」の附近に京都の某子爵の弟と自稱して吳服を高し

一二三四五六

一〇四 力の主
 一〇三 力の主
 一〇二 力の主
 一〇一 力の主
 一〇〇 力の主
 九九 力の主
 九八 力の主
 九七 力の主
 九六 力の主
 九五 力の主
 九四 力の主
 九三 力の主
 九二 力の主
 九一 力の主
 九〇 力の主
 八九 力の主
 八八 力の主
 八七 力の主
 八六 力の主
 八五 力の主
 八四 力の主
 八三 力の主
 八二 力の主
 八一 力の主
 八〇 力の主
 七九 力の主
 七八 力の主
 七七 力の主
 七六 力の主
 七五 力の主
 七四 力の主
 七三 力の主
 七二 力の主
 七一 力の主
 七〇 力の主
 六九 力の主
 六八 力の主
 六七 力の主
 六六 力の主
 六五 力の主
 六四 力の主
 六三 力の主
 六二 力の主
 六一 力の主
 六〇 力の主
 五九 力の主
 五八 力の主
 五七 力の主
 五六 力の主
 五五 力の主
 五四 力の主
 五三 力の主
 五二 力の主
 五一 力の主
 五〇 力の主
 四九 力の主
 四八 力の主
 四七 力の主
 四六 力の主
 四五 力の主
 四四 力の主
 四三 力の主
 四二 力の主
 四一 力の主
 四〇 力の主
 三九 力の主
 三八 力の主
 三七 力の主
 三六 力の主
 三五 力の主
 三四 力の主
 三三 力の主
 三二 力の主
 三一 力の主
 三〇 力の主
 二九 力の主
 二八 力の主
 二七 力の主
 二六 力の主
 二五 力の主
 二四 力の主
 二三 力の主
 二二 力の主
 二一 力の主
 二〇 力の主
 一九 力の主
 一八 力の主
 一七 力の主
 一六 力の主
 一五 力の主
 一四 力の主
 一三 力の主
 一二 力の主
 一一 力の主
 一〇 力の主
 〇九 力の主
 〇八 力の主
 〇七 力の主
 〇六 力の主
 〇五 力の主
 〇四 力の主
 〇三 力の主
 〇二 力の主
 〇一 力の主

赤垣源藏と朝鮮人參


▲大石内藏之助の苦心――眞理は永久に眞理
▲人参製劑を服用する人の先づ心得置る標準
▲血行を良くし、身体を温め、体力と腦力を強む

醫右衛門の「赤垣藏藏利の別々」を脱ける者は、何人も其一節に
これは人參を細末にしたものぢやが姉上様は
持病が瘧

あるを御記憶これあるべし。之れは火石内藏之助が吉上野之介に即て附
るの際、同志の者に授けて、萬一刀劍の傷を受けたる場合。又は發券を免へし
る時の氣付票に用ふべき護身藥として分け與へたるものなり。當時に於ては
參は古來より萬病に靈驗ありと傳へられて常用せられたる。其價著しき
價且つ良品品なりし爲、容易に之を購ふ能はざりしなり。爲人愛著しき
て產を傾け身を賣りたる例乏しからざりき。されば大泉良雄當時大參四
七に與へんが爲めに、之を愛護せるは容易の業には非ざりしなり。而
も良雄が種々の體験を拂ふても尚之を集めたるを見れば、如何に大參が靈驗
るかを知らんたるべし。

然るに明治維新後歐洲の文明が流行的に輸入せられ、醫學、藥學、衛生學、熱病、結核、瘧疾等に
に達し、藥劑學を日にするものは、產物藥のみにして満足せらるるたり、其
果之等の流行的思想に墮したる、大參も一時世上に忘れられたに至りしが、然
ながら、理學は科學に分類するを失はず、化學は化學、物理は物理、生理學は生理學、
矢張り多くの學者間に人參の化學的研究せられ、其結果產毒、產壯劑として
も卓著せる効果を有することを發見せられ、近來來日、來滿の學者の研
究の發見に依つて功能を立證せられたる例は外ならず、而して各學者
の化學的研究によれば人參は日本、支那、美國、朝鮮、南洋に產出せし其地
果に於ては朝鮮生の右に出づるものなしと云ふ。殊に朝鮮の内にても本國
產のものも優れたる効ありと證證せらるるは、能く之を知る處なり。然
ながら、朝鮮產人參の純良なるものは頗る高價に於て、容易に得難く、嘗て
多用は日本九十九の人の大參一本に三千圓を拂ひたりと言ふ程なり。されば市
場多くの人參製劑は本國產のものに原料するに堪へずして、獨かに他地產物
ものを入らしつゝあるもの多からず。製藥株式會社の發賣に係る亦シ人參製
劑は朝鮮總督府醫官岡田博士が、本國開成產の連品中より更に優良なるもの
を採擇し、朝鮮に他地產のものを入せずして化學的に精製せるものなれば、
數ある人參製劑中最も優秀確實なるものなり。而して亦シ人參製劑は藥力を感
んにし、服力を強め、血行を良くし、身體を強壯にす作用を有す。

東京京橋南條馬町



種
類

ホシ人參丸	廿錢五十錢 一圓二圓
ホシ人參錠	五十錢 一圓
ホシ人參末	五十錢 一圓二圓五圓
ホシ人參粉	五十錢 一圓二圓五圓
ホシ人參葡萄酒	一圓五十錢
ホシ朝鮮人參生	一圓二圓五圓

効能は如何も同じ

主なる効能として

神經衰弱、ヒステリー、精力減退、貧血、肺病、眩暈、リウマチス、子宮病、血の道、神經痛、營養不良、老衰、陰萎、腎臟炎

等にも用ゐる。更に越せる効能を有す。殊に血の循環を良くするが故に常に血液清淨に、色白く生々とした顔色になり記憶力を強め体力を増す。

星製藥株式會社

種		類	
水	シ人參丸	廿錢	五十錢一圓二圓
ホ	シ人參錠	五十錢	一圓
ホ	シ人參末	五十錢	一圓三圓五圓
ホ	シ人參 ^{初統} エキス	五十錢	一圓三圓五圓
ホ	シ人參 ^{節現} 葡萄酒	一圓	五十錢
ホ	シ朝鮮人參(生)	一圓	二圓五圓

効能は何れも同じ

二二五〇 二東察督辦

百圓
呈進
大吸

ばり
いん
毒病

醫にて機嫌配劑せる高き熱
あるを保證す若し前述の証
言に違へる事を預見せる時は
分析料百圓進呈

大坂有田 聖を置

可分遠はぬにせ物を賣る
野商が東京初め各地に繁興し
療効の甚削を既自せり秋商會
は大隈朝日東京報知東京時報
共他全國の大新聞と協約し

若するも何分百千人の世の中
 中にせんと知らずして買ふ人
 あり秋商會製刺御買求の方は
大阪有田 製刺を造
 買取あり

[illegible]

藏居自動車部金泉

君代丸 三月十八日午後
大有丸 三月廿五日午後
土川海通 丁目 高杉 回
電話五十九番

大連行、天津行
三月二十日
三月一日

共同丸 三月十七日午
三月十八日午
阿波共同汽船株式會社

仁川代理店 野口
春日町(電話二四四七)香
元山代理店 山口國
南大門(電話二七六〇八二)

立神丸	和歌浦丸	元山、清津、浦圓行	立神丸
佐須奈、嚴原、壹岐、博多			
月	月	日	日
後	後	後	後

眞元 每月二日九日十四日廿一日廿六日
元山、西湖、新浦、城津、瀧
第三、翠平、九三月 日後
同司、字品、利戶、大坂行

△日清丸	三月廿四日	後五時
△鶴州丸	三月	日 後五時
△木浦、釜山、礪原、鄉ノ浦、長崎 入安東丸	三月二十一日	正午時

安東丸	三月	日	正午出
信濃川丸	三月	日	午後二時
元山出帆			

南 米 行	基 隆 丸	滿 北 丸
一年四回	四月三日	四月二日
粵 州 行	後四時	前六時

內地各港出帆主要航路

北米行	孟買行	南洋行
每月二回	每月二回	每月一回
船期	船期	船期
由新嘉坡開	由新嘉坡開	由新嘉坡開
往香港	往香港	往香港
船期	船期	船期
由香港開	由香港開	由香港開
往新嘉坡	往新嘉坡	往新嘉坡
船期	船期	船期
由新嘉坡開	由新嘉坡開	由新嘉坡開
往香港	往香港	往香港

京城切符發賣所內國通運會社支
 店電話七〇八
 仁川京城通切符發賣所開張處
 電話六一

日章魚料理

本試 明治廿一年五月三十一日
道院及外船と料客運送の便あり
支店川口所代理店将次振込に願上
釜山港佐藤町 釜山支店

第二高運丸
咸鏡丸
京畿丸
月月月
日日日
釜山

[illegible]

○元山ヨリ江原道寄港釜山嶺門二	○京畿丸	第二前送大
威鏡丸		
忠清丸		
月日	月日	月日
元山	元山	元山

○江陵丸 每日 釜山
○浦項行 且生補方魚肝油丸 龍胆經由一

○釜山鹿水問
統濟丸 巨濟丸 每日釜山

順天丸 三修 中 木浦
南陽丸 三修 中 木浦
○本江ヨリ多海島各見行 木浦
慶興丸 月 日 木浦

三十一日六休航
其他結氷ノ爲メ休航行ノ事アリ
○荷島行(芝罘、大連經由)
江原丸 月 日 仁川發

○清津行(大阪神戸門司より)
 懷平丸 月日 釜山發
 元山發